

福島敏夫隨筆集「乙戸南雜話『花鳥風月および星・虹を愛でながら』」

主宰論説 55

詩訕堂・六義園散策記

詩仙堂散策記

2023年9月14日、日本建築学会の参加登録を終えた後、午後の研究協議会への参加をパスし、洛北の静かな散策の場として、「詩仙堂丈山寺」を訪れた。これは、その時の散策記である。

この詩訕堂は、女郎婦觀音（めのうかんのん）を本尊とした山間の寺で、中国の漢、唐、晋、宋の時代の名詩人36人の詩を収蔵した額が飾られた『36詩仙の間』があり、詩仙堂という名の由来のようである。

醉芙蓉の花など、庭園内で、春夏秋冬色々な花が咲き、FACEBOOKで、時々映像を流してもらって、楽しんでいる。これまでの感謝も兼ねて、体の不具合も残っていて、老妻に付き添われ。杖についての形だったが、かなり苦労しながらも訪れて、その趣を楽しむことができた。この詩仙堂は、江戸時代の徳川幕府の家臣石川丈山が、晩年を過ごした山間の別荘だったようである。詩訕堂と一体化したこの丈山寺は、現在、禅宗のひとつの曹洞宗の末寺となっているようである。酷暑の残るこの時期、観光名所の金閣寺、銀閣寺もいいが、このような閑静な場所を散策するのも一興かと思われました。

令和7年9月16日

令和7年12月21日

追記：

最近では、日本と沖縄の約1300kmを移動する渡り蝶のアサギマダラが、庭園内にあるフジバカマの花に飛来し、羽を休めて止まっている貴重な映像が、Facebookで、流して貰った。改めて感謝したい。

六義園散策記

2023年10月26日、午前中に日本建築仕上学会への参加登録を済ませた後、東京都の10大庭園に指定されている六義園を訪れた。これは、その時の散策記である。

六義園は、典型的な日本式回遊庭園であり、石、木、池、小島、遊歩道などを巧みに配して、散策を楽しむ工夫が、こらしてある（正確には、「回遊式築山泉水庭園」という。：ウィキペディア日本語版）。開設150周年に当たる記念すべき年のように、春夏秋冬の様々な花や紅葉の景色を楽しめるようだ。春の枝垂れ桜と初夏のつつじの開花した情景が有名なようである。シーズン・オフでもあり、人の出も、かなり少なく、ゆっくりと、静かに、秋の紅葉の季節の趣を楽しむことが、できた。

もともと、江戸時代の元禄年間の5代将軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保（小江戸といわれる川越の城主）が、日本の和歌の趣を基に作り上げた名庭園のようである。その後、岩崎弥太郎の別邸だった時期もあったが、現在、文京区本駒込にある、都営の回遊式庭園として、東京都民および文京区民の憩いの場となっているようだ。約55年ぶりの訪れだった。修士1年次、下宿の近くにあって、日曜日などに散策していたことを思い出すようだ。腰痛も残り、老妻の付添もあったが、久しぶりの長距離の歩きを、満喫できたようだ。

令和5年10月25日

2025年12月31日

追記：

この東京都の六義園とともに、香川県高松の栗林公園、福岡県博多の大濠公園が、日本の回遊式公園の典型であるが、フランスの印象派画家のクロード・モネが造園したセーヌ川河畔のジヴェルニー村の回遊式庭園である「モネの庭園」と、密接な関連を持っているようだ。